

OB会報

湘南サッカー部OB会報 第23号

伝 統

湘南サッカー部OB会会長 36回 井上 孝

昨年のこの会報で、OBがこれだけ愛着をもつことのできる存在を、「善き哉湘南サッカー」との強い思いで述べましたが、明けて一月の総会において図らずも会長に選ばれてしまいました。創部80年の節目を運営された柳川前会長をはじめ、これまでの先輩会長に比すれば、そしてなによりも80余年の光輝ある伝統に鑑みれば菲才被うべくもありませんが、幸いにも、副会長に新たに牧村英樹君(37回)、相羽克治君(41回)が加わり小泉親昂君(39回)と共に運営にあたってくれることになりました。加えて、事務局長の横山雅行君(45回)、武藤俊一君(53回)をはじめとするスタッフもきわめて心強い存在でありますので、微力その責を全うすべく務めるつもりであります。ここに、OB諸氏のお力を賜りますようお願い申し上げます。

この秋には、ひとつ思いがけない出来事がありました。前々会長の桑田さんより小包が届きまして、そこには

「湘南高校サッカー部々歌」のCDが、その復刻の経緯を綴った桑田さんの詳細な文とともに入っております。それによりますと、16回の戸沢澄先輩が部歌の復活を願い、桑田さんが同年輩のOB諸氏に呼びかけ、賛同してくださった方々のご芳志と熱意によって、見事にそれが復刻されたというのです。岩淵二郎作詞・鏑木欽作曲のそれは、56回生ぐらまでのOBは岩淵先生の追悼記念誌「湘南サッカー半世紀を経て」の冒頭に載っている詩で見覚えがあるかもしれません。とはいえ、部歌は私も歌ったことがありますのでしたし、そういうものがあつたことも知りませんでした。昭和12年に初めて全国大会に出場してからの湘南の黄金時代、14年出場時に、「難しい校歌より、歌いやすい勇ましい歌を」というので作られたものだそうです。今回、鏑木先生(私も音楽を教わりました)のお宅でも譜面は見つからず、戸沢さんがお歌いになり、鏑木先生のご

令息で作曲家の鏑木創氏(名曲「銀座の恋の物語」で有名です。19回)が採譜し、ついに立派な譜面とCDとに完成させてくださいました。半世紀を経たの見事な復活です。いま、インターネットのホームページ「湘南サッカー」のOB会欄に♪部歌♪として載っております。どうぞお聴きになってみてください。

この出来事は、多くの先輩方の湘南サッカーに対する限らない情熱と、後輩たる現役諸君に寄せる大きな愛情をつくづく感じさせてくれました。今回、CDを届け、この話をするために湘南に行った際、監督の清水先生から、「こんなものが古い戸棚から出てきました」といって手渡されたのが、昭和21年の湘南中学サッカー部全国制覇の「報告書」でした。黄ばんだわら半紙3枚に格調高い文章が綴られておりました。神奈川県予選を勝ち、付属中(東京)、真岡中(栃木)、そして浦和中(埼玉)を連破して関東代表になり、さらには中部代表の韮崎中(山梨)、そして東北・北海道代表の仙台一中に勝って、ついに東日本代表として西と雌雄を決すべく甲子園に進み、神戸一中を3-2で降して、全国優勝するまでの感激的な報告です。創部26年目にして全国制覇した喜びを詠んだ赤木校

長の漢詩も紹介されていました。
蹴球蹴球復蹴球 二十六年蹴復蹴
甲子原頭制全国 国家再建復似球
(球を蹴り球を蹴りまた球を蹴り
二十六年蹴りまた蹴る
甲子原頭全国を制す
国家再建また球に似たり)

「伝統」という言葉が古来の日本語にあつたかどうかは詳らかにしません
が、少なくともtraditionの原義は「手渡す」ことのようなのです。上で述べた先輩方の心のこもったCDを現役に「手渡し」、この古い報告書を「手渡され」たのは、まさに湘南サッカーの伝統の重みを感じる一瞬だった気がします。
伝統の強みとは、その分野はなんであれ、先輩たちが厳しくも温かい眼差しをつねに注いでいることが感じられ、築かれた歴史への誇りをもつとともに、だから自分たちもできるはずだという後輩の頑張りだろうと思います。
そう考えると、歴史を知り、思いを新たにする意味でも、今回のできごとは大変ありがたいことだったのです(OBとして自画自賛しているようですが、これは先輩OBに対してです)。
もちろん、「伝統の」と言ったときに、それが長く続いているとか、あるいは勝ち続けるというだけではないでしょう。「湘南サッカーの伝統」のスタイ

ルと言うものがあるでしょう。それは戦術やプレーに限らず、行動や態度にも反映されるものです。それもまたきわめて大事なことだろうと思います。
そうした伝統の湘南サッカーの名を現役諸君が全国に轟かす日が始まることを確信しております。同時に、その歴史の一端を担った者の集団として、OB会もまた、「善き湘南サッカーOB会」であり続けることを願って止みません。

湘南高校サッカー部を振り返って

前顧問 岩田 好一

湘南高校サッカー部のOB会の皆様、4月の異動により、神奈川県立大井高等学校勤務となりました。大井高校といってもあまり耳慣れないと思いますが、県西部地区の大井町にあり、御殿場線沿線の創立22年目の学校です。
湘南高校在職中は、伸びやかな生徒たちとともに充実した教員生活を過ごすことができました。これもひとえにOB皆様方の温かいご理解とご支援があつてこそと思っております。

サッカー部顧問としては、わずか5年という短い間でしたが、いろいろな思い出が走馬灯のように浮かび上がってきます。1年目の関東大会第2次予選会の準決勝での敗退(あれは、レフリーがペナルティーエリアの外の反則をPKにしてしまったと思いますが……)。

3年目の創部80周年の蹴球祭での各年代での小田原高OBとの試合(お互いが全力を出し合い高校時代を思わせる好ゲームでした。ちなみに、私は、小田原高OBで高27回卒です。)4年目のスペイン遠征計画(万全の体制で臨んでいましたが、イラク戦争勃発の為に直前に涙を飲んで中止になりました。その時、ヨーロッパ選手権予選であるイングランドVストルコ戦観戦予定が不可能となり、未使用のチケットがいまだ手元に……ウーン 残念! 切腹!)5年目のスペイン遠征(やはり直前でバスケット地方の完全独立を求める民族主義組織EATの犯行と見られるマドリッドの列車爆発事件が起こり、またしても中止かと思われましたが、無事遠征することができました。県立高校でのスペイン遠征は、神奈川県内では初めてだと思います。)など、次々に蘇ってきます。
指導の面において私は、Bチーム中

心に指導しました。BチームからAチームへできるだけ多くの選手を送り込めるように努力しました。清水先生の独特な指導方法と湘南高校サッカー部の伝統がうまくマッチし、選手達が見る見る遅く成長する姿を目の当たりにすることができ大変参考になりました。

湘南高校での在職期間は短いものでしたが、私にとって生涯忘れ得ぬ貴重な体験をさせていただいたと感謝しております。

新任校におきましては、今までの貴重な経験をよりよく生かし、心を新たに微力を傾注する所でございます。今後ともなにとぞ一層のご指導ご支援を賜りますようお願い申し上げます。
末筆ながら湘南高OB皆様のご健康とご活躍をお祈りいたします。

山口 晴夫君を偲ぶ

OB会副会長 41回 相羽 克治

湘南サッカー部OB会組織化の基礎造りからその後の運営まで、20余年にわたり実務の中心としてご苦労いた

いた45回山口晴夫君が、本年3月20日、52才という若さで亡くなられました。数年前体調を崩され、ペガサスの試合から遠ざかっておられました。昨年あたり大分復調されたとうかがっておりましたので、訃報を受けた時には「驚き」と「悲しみ」と「思い出」が同時に体の中を駆けめぐりました。

サッカー部OB会は、組織化される以前から1月15日には「蹴球祭」が行われており、故岩渕二郎先生が中心となって寄付集め等をされておられました。昭和51年頃、OBの人数も増えてきたので名簿の整理・組織的運営・連絡の徹底などをしっかりするようにと岩渕先生からご指示を受けたのですが、ガリ版刷りのお知らせを出すくらいで、月日が経ってしまいました。昭和55年3月岩渕先生が急逝され、その後旧制OBの方々を中心となって、「偲ぶ会」開催や「記念誌」を発行するにいたり、故天野武一氏を会長に、故安保隆文氏事務局長のもと、名簿の整理や会報の発行など組織的運営の第一歩が踏み出されました。その時、実務の中心として大変ご苦労されたのが山口君でした。いわば「OB会の組織化は、岩渕先生が命を懸けて指示をされ山口君を中心とした実務部隊が成し遂げた」と言っても過言ではありませ

ん。私もその時以来OB会の運営に関わってききましたが、山口君より年上であったため、言いたいことを言わせてもらったり面倒くさいことや嫌なことは彼に押しつけてきてしまいました。

その後、年1回の会報発行・総会の実施・夏の集まり、また、蹴球祭の充実など地味ではありましたが「続けることが大事だ」と尽力されてきました。蹴球祭では、寒いから「豚汁」を出そうということは何年間か面倒を見ていただきましたが、後かたづけは彼任せで、皆が2次会へと楽しく練り出している頃、奥様にもお手伝いいただき暗くなるまで掛かったと、後から聞いたことがありました。また、湘南の新校舎建設の時にはグラウンドが使えず会場探しや当日の運営で苦労したこともありました。蹴球祭当日に大雪が降り中止にしたときには、手配をしていた食材の後始末に奔走されていました。会報の発行では、依頼原稿の集稿が遅れ印刷屋さんにも無理を言って、暮れの30日の夜に一緒に押し掛け校正をし、大晦日に印刷してもらったことが思い出されます。

昭和64年正月、現役が23年振りに全国大会出場を果たしたときには、OB各位への特別寄付依頼や壮行会の段取りと実行、記念テレカの作成などに尽

力され、また、大会中は宿泊も含め現役と行動を共にし強力なサポート役を努められました。

山口君とOB会の思い出をつれづれに述べさせていただきます(まだ何か書き忘れているような気がします)が、今一度、20余年にわたる彼のOB会への多大なご尽力に感謝するとともに、今後、OB会がさらなる発展と活気あふれるものとなるよう、彼への恩返しとして私も微力ながら努めるつもりであります。

ここにあらためて、ご冥福をお祈り申し上げます。

*7月10日には同期の浅倉君を幹事に「山口晴夫君を偲ぶ会」が催され、50名ほどが出席、また、来られない方からは多くのメッセージが寄せられました。詳しくは「湘南高校サッカー部」のホームページに掲載されています。是非ご覧下さい。



70才以上の 福井ロイヤルエイジ大会

福井大会遠征世話役

26回 酒井 佐弘
27回 山本 修

70才以上対象の第3回福井ロイヤルエイジ大会が、全国から9チームを集めて、9月25日(土)26日(日)に開催され、この大会に湘南OBサッカークラブの名前で参加しました。

福井ロイヤルエイジ大会は、日韓ワールドカップの際、メキシコが福井県三国町でキャンプを張ったことを記念して、一昨年から開催されるようになった。第1回第2回は東京神奈川埼玉連合チームに、湘南OBから小林、川島、酒井、鈴木、山本が参加し、今年初めて湘南OB中心のチームで参加できました。

70才以上の湘南OBは下記の9人が参加、OB以外の湘南ペガサス1人に加えて、神奈川四十雀3人、東大LB2人の応援参加を得て、15人のチームを編成して遠征しました。

湘南OB参加者 小林忠生(24回)、小田島、川島(25回)、酒井、鈴木(26回)、栗原、山本(27回)、近藤、

末永 (28回)

ゴールデンパンツの80才竹下さん(神奈川)は別格として、小林74才以下の、ロイヤルエイジとしては若い年齢構成で、2勝1分の好成績でした。

9/26 湘南OB 0-0 西日本元老

9/27 湘南OB 4-0 京都連合

得点 酒井2、山野(東大)、山本

湘南OB 1-0 東海連合

得点 小林(PK)

西日本元老は、押していたのに点が入らず、欲求不満の引き分け。

京都は、前半関西白線クラブの高齢チームで3-0、後半は若手に交替してきたが、1点を加えての完勝。

名古屋中心の東海連合は強力チームで、かなり押されたが、よく守って無失点、小林のPKの1点で勝ちました。

60才以上対象の刈谷スーパーエイジ大会には、湘南OB中心、ペガサスから一部参画のメンバー構成で、湘南OBクラブの名前で、10年前の第1回から参加し始め、第7回から湘南ペガサス60として参加するようになった歴史があります。10年の時を隔てて、その歴史がまた繰り返され、2、3年後には湘南ペガサス70の単独チームとして参加できることが期待されます。

ペガサス60の活動報告 2004

30回 中原 弘巳

JFAが主催する60歳以上全国シニア大会が今年例年の福島Jヴィレッジを離れ、熊本で行われました。遠い場所での開催でしたが、湘南ペガサスは19人もの多数のメンバーで参加し、他の殆どのチームが3試合しかやらないところを、3日間で5試合も行いました。早朝、羽田を飛び立ち、午後には早速2試合、翌日に2試合、最終日午前に最後の試合を行ってから、近くの温泉で汗を流して、夕方の便で帰るといふプロチーム並の強行日程でした。観光は早朝の散歩を兼ねた熊本城や寄り道をした水前寺公園程度で、本日にサッカーが好きな人たちの集まりと思います。新聞の地方版には「いくつになってもボールを追うのが好きなんです」の見出しでこの大会が記事になっていましたが、むしろ「年を取れば取るほど・・・」の感があります。緑豊かな5月、阿蘇外輪山の見える大津運動公園自慢の素晴らしい天然芝のピッチで充分試合を楽しめ、戦績も3

勝2分けの好成績でしたので、蜻蛉帰りで遠くまで出かけた甲斐があったと思います。

今年の1月から11月まで、公式戦を23日間の中で通算43試合を行いました。中に65歳以上の5試合を含んでいます。戦績は23勝、14分け、6敗で、負けの少ないのが今年の特徴でした。

43試合で総得点61、総失点23ですので、守備力とともにかんがりの攻撃力があつたこととなります。上記熊本大会の他に関東各地や刈谷大会など、県外での試合が36試合と多く、殆どの試合を県外で行っているのがペガサス60の特徴です。

全試合の中で、36名の多くのメンバーが参加し、43試合に平均15名が集まっています。この中でも、全試合参加の1名を始めとして、試合の80%以上へ参加したメンバーが11名もいます。このことがチームの安定性に繋がりが、負けの少なさに結びついていると思います。

今年の清水スーパーシニア大会では0-60に加えて0-67大会が新しく実施され、ペガサスは何人かのヴィジターにも加わって戴き、2チーム編成で両部門に参加しました。0-67は清水、東京40雀、京都暁、西日本元老のシニア有力チームとのリーグ戦でしたが3

勝1分けで優勝しました。0-60は優勝した清水に0-1で敗れ惜しくも3位でした。

また、今年は華崎市市制施行50周年を記念する「武田の里にらさきサッカーフェスティバル」が行われ、神奈川を代表するチームとして参加しました。関東からの4チームでのリーグ戦で、3戦全勝でブロック優勝しました。清水大会と合せ、初ものに強いペガサスの伝統に見合う成績でした。

上記の他に、藤岡市での「ねんりんピック」大会にペガサス主体の神奈川県選抜で参加しています。毎年11月23日に実施の「FUS」は付属、湘南OBの試合として、50歳以上、60歳以上及びロイヤルの部門で今年も行いました。ここでの60歳以上は10-2のスコアで勝ちましたが、この結果は日頃の試合経験の差によるものと思います。

現在10歳刻みでチームを編成し試合も行っています。40代は良いとして、50代、60代では後半のメンバーは試合に参加し難くなって来ますし、前半のメンバーはもつと試合に出たいでしょう。50代では今年からA、Bの2チーム編成で問題を解決しています。60代でも前半、後半の2チーム編成と、それに対応する試合参加を計画するのが、来年以降の課題と思います。

ペガサスシニアB 2004年活動報告

38回 藁品 行夫

シニアが二つのチームに分かれた最初の年、どんなサッカーが出来るのか不安と、もしかしたらの期待のなかに開幕した神奈川県50雀Bリーグ、最後の小田原戦を1対0で勝利し、3位で終了しました。まずまずの成績で終わりました。こんなシーズンを振り返ってよかったこと今後の課題などをお話してみたいと思います。

新しいチームの初戦、代表として何とか参加したかったのですが義父・義母の一周忌のため参加できませんでしたが、県庁に3対0の幸先の良いスタートができました。

第2戦は横浜五十雀、過去に負けたことのない相手で少し油断をしていたのか前半開始早々に2点を失い、前半終了間際に1点を返し、後半はペガサスのペースで試合を進めたのですが残念ながら得点できず2対1で痛い黒星を喫してしまいました。この黒星が今年唯一の黒星でした。

第3戦は浅・藤に1対0で勝利し、

この勢いをつづけたかったのですが、第4戦川崎、第5戦横須賀と立て続けに1対1と引分けてしまいました。両戦とも、前半に失点し、後半はペガサスのペースで試合を進められたのですが、同点しても追加点が奪えず引分けてしまった。しかしながら、徐々にチームとしての一体感が醸成されてきつつあり、これ以降の試合において戦術的なものも浸透していったように感じられました。

第6戦茅ヶ崎イーストには3対0で快勝、第7戦秦野も同じく3対0で連続しての快勝、この勝利で三位以上を確定しました。

最終小田原戦は前半から小田原に攻め込まれ、危ない場面もあったのですが、ワンツーでの壁パスでペガサスが1点先取しました、後半に入ると小田原の運動量は落ちないのに、ペガサスの運動量が落ち始め、小田原のもう攻撃にさらされましたがろうじて守りきり、有終の美を飾ることができました。

今年の8戦を振り返ってみますと、チームとしてよかった点は、当初の4、4、2を途中から4、3、3に変更したことではないでしょうか。4、4、2でゲームを始めるのですが前線が2人の為、攻撃を厚くするために中盤の

2人がサイド攻撃に攻め上がると、反撃された時に中盤の守備が2人しか残らず、攻撃を止めたとしても、中盤が薄い為、うまく攻撃が出来ませんでした。しかしながら、前線を3人にするにより、バランスのとれた攻守を出来るようになりました。

今後の課題として、一番重要なのはメンバーを増やすことではないでしょうか。現在の登録メンバーは21名ですが、試合毎の参加者は最大で17名、最小の時は11名しか参加できませんでした。幸い、殆どの参加者が1試合をフルに走れる体力があったため、何とかこなしましたが、年々体力も落ちていくことを考えますと、1試合最低15人以上の参加が必要だと考えられます。来期はよりチームの一体化を図り、参加者全員が試合に出て、リーグでの優勝を目指しましょう。

湘南ペガサスシニアA 2004年活動報告

44回 坂部 治郎

今年から、メンバーの出場機会を増やすことを主たる目的として、ペガサ

スシニアは2チームに分かれることになり、50台前半を中心としたペガサスシニアAと50代後半のシニアBが作られました。シニアAは特に新規加入者が、23名中、9名(途中加入も加えると10名)と多く、4月1日から新しいチームでの出発となりました。

今年のリーグ戦での成績はリーグ2位と、一見すればまあまあ成績です。リーグ戦での戦績は4勝(内、不戦勝1) 1敗3分け、勝ち点15 得点10(内不戦勝点3)、失点3でした。3位(茅ヶ崎ウエスト)、4位チーム(神奈川)の勝ち点が13ですので、2位から4位までは、ほぼ団子状態です。今年のチームを現時点で振り返りますと、得点能力の低さから、みすみす勝ちゲームを引き分けてしまいました(3試合の引き分けとも、こちらが7割がたボールを支配していたにもかかわらず)。特に、リーグ初めの3試合は、1敗2分け得点0失点1という体たらくで、言ってみればお目覚め前の状態でした。その後は4勝1分けで、最終的には何とか格好がついたところと、悲しさか、チームとしての熟成が未だしの感があります。これは、チームとして、40雀からとの2重登録が出

来なくなり、また、50雀リーグでのチーム数が少なくなったため、1年を通じた試合の中で熟成を図るということが出来なくなったことも関係しています。

しかしながら、そうそう悲観してはおりません。

まず、第一に50雀のチームとしては、結構走力があるということ（若さのため？）。第二に失点の少なさから分かるように守備がかなり安定しています。とりわけこの点が今年2位になった主な理由と考えています。今後、リーグ、トーナメントなどで優勝を果たすためには、当面のライバルである茅ヶ崎ベスト（今年は7勝1分け勝ち点22のぶつちぎり優勝）を倒さねばなりません。彼らは確かに強い、でも勝てない相手ではないというのが、私たちの共通の認識です。今年のリーグ戦の唯一の負けゲームはベスト戦で、0-1でした。ベストは、得点15失点2ですので、我がチームの実質得点7と比べると、その差は明らかです。この差を埋めるため、中盤の構成力良くして、厚みのある攻撃ができるようにしたいと思っています。また、得点能力の向上は、今後チーム

を目標であるリーグ優勝、全国大会出場、優勝（？）を果たすためには絶対必要ですが、ひとつの解決策として、セットプレーを有効に使えるようになりたいと考えています。

現在は県議長杯に参戦していて、12月4日が茅ヶ崎イーストとの2回戦、順調に勝ち上がりますと、12月25日に準々決勝、1月29日準決勝、2月5日決勝の予定です。出来れば、決勝まで勝ち上がって（十分に可能性はあります）、茅ヶ崎ベスト（勝ちあがってくる可能性大です）と対戦したいと望んでいます。今年は茅ヶ崎ベストとは全国シニアも含めていつも1点差ゲームで3連敗中ですので、何とか一矢を報いたいと思います。また、今後は練習グラウンドを何とか少なくとも月1回確保して、チームの熟成を図り、来年のリーグ優勝を目指したいと考えています。

ところで、一步引いて眺めてみれば、50を過ぎたおじさんたちがこんなにも熱くボールを追いかけているのはちょっと不思議な光景かもしれません。しかし、渦中にある私たちは、一度グラウンドに出れば、中学高校の頃と何ら変わりなく、ボールを追いかけていま

す。勝利を目指して、必死に汗を流すのはもちろんですが、できれば怪我のないサッカー人生をチーム全体でエンジョイできればと願っております。

ペガサス・ジュニア 二〇〇四年の想い

49回 元松 経男

今シーズンには、五代（代表・渉外）石郷岡（会計）に水上（総務）が幹事として新たに加わりました。ゲーム担当としても元松（監督）遠見亨（ゲームキャプテン）に新たに志水（副監督）が加わることで、チーム世話役の負担の分散と、次世代へのスムーズな引継ぎを目指して、楽しい？サッカーシーズンが始まりました。メンバーも、転勤で一時チームを離れていた吉田が復帰し、伊東・竹本が新規参加して総勢三十三名となりました。

郡市リーグ（2部）は4月から始まりましたが、接戦をものにして二連勝。幸先の良いシーズンの幕開けでした。しかし、5月に入ると県庁・高麗戦と強豪相手のゲームが続き、苦戦を強いられる事となりました。昨年から若手

が多数新規参入して、チーム力上昇中の両チームと、若手の入会が少なく、世代交代がうまく進まないわがチームとの差が点差に現れてしまった2試合でした。特に、高麗戦は2点先制しながら、後半に入ると徐々にチームバランスが崩れ、失点を重ねるといって、わがチームの典型的な負けパターンとなつてしまい、逆転負けとなりました。

今シーズンのターニングポイントとなるゲームでした。

今シーズンの2部は、上位3チームを除いてはどんぐりの背競べで、どのゲームも、前半はペガサスのペースで進むことが多く、かなりのチャンスがありました。しかし、それが得点に結びつかず、後半になって盛り返されて失点してしまうという、ここ数年の悪いパターンが多く見られました。

リーグ戦は、上位グループを除いて、団子状態が続く、息の抜けないシーズンでした。どのチームも世代交代が課題のようで、ゲーム当日の参加メンバーによって、チーム力かなり変わってしまふところが多かったようです。働き盛りの年代だけに、ペガサスとしても、新人勧誘と世代間交流による、チーム力の維持が今後も大きな課題となりそうです。

そんなチームをずっと支えてくれて

いた、五代代表が9月をもって海外転勤となり、大きな痛手となってしまいました。ゲーム中は勿論、それ以外の場面でも常にチームを盛り上げ、チームのために尽力してくれ、私たちサッカー小僧たちの面倒を見てくれただけに、居なくなつて初めて判つた代表世話役の大変さを痛感し、あらためて、同君に感謝したいとおもいます。(代表は石郷岡が引き継ぎました。)

そんな訳で、今年のマスターズ御殿場大会は、五代の抜けた少し淋しい雰囲気となつてしまいました。それでも、シニアの藤田・河野両先輩、中島さん(四十八回卒)、菅浦さん(四十九回卒)の応援参加もあり、例年通り、サッカーと温泉、地ビールとソーセージを十分に堪能してきました。

リーグ戦のほうは、最終戦まで上位・下位の順位が確定せずに、各ゲームとも必死の総力戦となつたようです。わがペガサスは3勝1分7敗で10位となり、自動降格は免れたものの2月の入れ替え戦で、2部残留に再挑戦となりました。こんなシーズンではありましたが、一試合一試合全員の気持ちが一瞬たりとなり、サッカーを楽しみ盛り上がった今シーズンでもありました。

最後になりましたが、今シーズンの

思い出から欠かす事の出来ないこととして、山口晴夫先輩が急逝されたことを記したいと思えます。私たちの世代は現役の頃、ヘッドコーチとしての晴夫先輩から、鈴木先生の下で湘南サッカーの基本を教えていただきました。そして、卒業してからは、湘南クラブや湘南ペガサスで、サッカーを楽しむことと、湘南サッカーの伝統の重みをも伝えていただきました。サッカーの技量やうまい下手ではなく、一人一人のサッカーへの思い入れを理解していただき、後輩たちのそれぞれと対等に付き合っていたことは、感謝の想いでいっぱいです。ご冥福をお祈りいたします。私たちも、同じように後輩たちと交流し、湘南サッカーの大切な心と想いを伝えていきたいものだと、つくづく感じた一年となりました。

四年ぶりの 県リーグ一部昇格

トトカルチヨ湘南 64回 木村 義幸
75回 竹下 洋平

「今年こそは一部に昇格しよう！」

昨年12月の忘年会でのこの一言から今シーズンは始まった・・・

今シーズンを振り返る前に、トトカルチヨ湘南の歴史について、簡単に触れさせて頂く。

【トトカルチヨ湘南の歴史】*記憶を頼りにしており、多少事実と相違する部分がある点をご容赦下さい

トトカルチヨ湘南(以下、「トト」)は約10年前に発足した湘南高校サッカー部OBによる純血のクラブチーム(チーム名の由来については別の機会に譲る)。当初は64〜65回生(全国大会出場メンバー)を中心に、「湘南クラブ」として活動していたが、世代交代を進める必要から、「湘南クラブ」は大学生中心、「トト」は社会人中心と棲み分けをした経緯がある。

「トト」発足後、暫くは藤沢市リーグで活動していたが、市内敵なしの状態であったこと(実際は色々な事件が引き金?)、神奈川県市サッカー大会で優勝したことが自信となり、神奈川県リーグへの参加を決定。県リーグでは三部から一部までトントン拍子で昇格。次は関東リーグかと誰もが心の中で目標を掲げたが(実際に口にしたものは誰もいないが・・・)、主力メンバーは既に三十代に手が届く年齢に達し、残念ながら一部リーグ在籍2年で

降格を余儀なくされた。

その後、74〜75回生(関東大会県予選ベスト4メンバー)を中心とする大学生の加入により、世代交代が進んだが、10歳に及ぶ「ジェネレーションギャップ」と、サッカー感の相異による「コミュニケーションギャップ」により、二部リーグでもなかなか本領を発揮するに至らなかった。

【今シーズンを振り返って】

世代交代が徐々に進む中、昨シーズンより、チームの運営を社会人から学生へ移行。練習メニューやグラウンド確保、試合日程の調整といった運営を学生が主体的に行う体制となった。昨シーズンは、リーグ前半戦こそ苦戦したが、後半戦は無敗で、二部リーグ降格後、最高の成績(12チーム中4位)を残し、次シーズンへの確かな手応えを掴んだ。

今年は例年になく早い1月にシーズンイン。週一回の練習で、一部リーグ昇格を果たすために何が必要かを考え抜いた結果、出した答えは「コミュニケーションの強化」。

グラウンドでは、どこでボールが欲しいのか、絶えず指示の声を出し続ける意

識を全ての練習で徹底。一方、グラウンド外でも電子メール等を通じ、常にチーム全体で戦術の共有化を図る等、コミュニケーションの強化に注力した。

リーグ開幕を控えた2、4月は、実戦を意識したパス回しの練習を数多く実施。ボールの欲しい方向に必ず手を出して指示したり、パスを出す際に必ず相手の名前を呼んだり、ごく基本的な練習ではあるが、「コミュニケーションの強化」を意識したチームづくりを徹底。更に一対一の局面的練習を数多く取り入れ、「守備の意識」を徹底し、失点しないチーム作りを心掛けた。

5月に入りリーグ戦が開幕。「コミュニケーションの強化」と「守備の意識」の徹底により、開幕から無失点の4連勝とスタートダッシュに成功。

リーグ開幕後も、高い位置でボールを奪い得点を高めるべく、二対二の局面的練習を多く行ったり、一点差の試合を勝ち切るため、コーナーキック等セットプレーの練習にも時間を割き、チームの意思統一を図った。結果、苦手の夏場を前に、全勝で首位に立った。

リーグ戦中盤、過去勝利したことのない対横須賀シーガルズ戦では、勝ちこそ逃したものの、終了間際の同点弾で

追いつく等、粘り強さを発揮。シーズン初の勝ち点3を逃したことから、試合終了後のミーティングでチーム戦術について意見の相異が噴出する場面もあったが、忌憚のない意見をお互いにつけ合うことで、逆にチームの結束力は高まった。

その後も快進撃は続き、残る2試合。7勝2分で迎えた対秦野戦。勝てば優勝とのプレッシャーから、序盤より終始相手ペース。結果1対3でまさかの完敗。今シーズン初の黒星を喫した。

気持ちを切り替え望んだ最終戦。対戦相手はオフサイド。幸運にも会場は湘南高校グラウンド。キックオフ。慣れ親しんだグラウンドで、序盤から相手を圧倒。前半こそ無得点であったが、持ち前の守備力で相手の攻撃をシャットアウト。ラスト15分に貴重な1点をあげ勝利。四年ぶりの一部昇格を果たした。歓喜！感涙！（某チームの不祥事により2位に転落する可能性ありとの報に、一同喜びが半減するも、翌日正式に優勝が決定）

今シーズンを振り返ると、昨シーズンは先発メンバーと交代メンバーの戦力に大きな差があったが、「コミュニケ

ーション強化」による全員へのチーム戦術の徹底により、誰が試合に出ても戦力が落ちなかったこと、機動的な選手交代により、試合の後半もチーム力が落ちずに戦えたことが優勝の最大の要因であったと感じている。

【来シーズンへ向けて】

湘南高校を卒業し、それぞれ大学生や社会人として別々の世界を歩んでいるが、世代を超えた同窓生が集まり、ハイレベルな県リーグで、真剣に勝負に拘るサッカーが出来る「トト」に所属出来たことに心から喜びを感じている。また裏方でチームを支えてくれた多くの仲間、今まで「トト」で活躍された諸先輩方に心から感謝を申し上げます。

来年からは念願の一部リーグ復帰となるが、目標は高く「優勝」、その先の「関東リーグ昇格（今は双眼鏡を使っても見えますが・・・）」を目指し、来シーズンを迎えたい。

発足から10年の歴史を刻むトトカルチヨ湘南。今後も末永く湘南高校サッカー部の良き伝統を継承していくためにも、新戦力の加入をお待ちしております。

最後に、グラウンドの融通等たいへんお世話になりました現湘南高校サッカー部監督の清水先生にこの場を借りて感謝を申し上げます。

スペイン遠征
OB会への報告

元顧問 鈴木 中

2004・3月末の春休みを使って、湘南高校サッカー部は歴史上初めての海外遠征「スペイン合宿」を行いました。心配されたことは何も無く、空港での厳しい検問は覚悟していたことで、それ以外はさすが湘南生と言われたようで、下記のOB会HPへの報告書の一文のような素晴らしい成果を収めました。

只このような事業は学校が主催しては出来ないのです、サッカー部OB会・父母会が主催する形にして実施しました。私が「団長」として無責任に春休みを利用して生徒の有志が参加して、それを先生がお手伝いするという方法で行いました。後から考えるとかなり無謀な感じもしますが、業者の選定、

スケジュール、人の問題等、条件がそろい綿密な計画さえ出来れば、これからも可能な事業だと感じました。せめて2年に1回ぐらいは実施したいと思っています。

百聞は一見に・本場サッカーの指導体系、日本の小・中・高・年代のカテゴリ別の一本化された指導法、指導内容、そしてかたくなに守っている、この地方特有の「バスケット純血主義」・おらが町のサッカーの本質とは？一口で言うならアスレチック・ピルバオの100年間続いている伝統、自負、一度も2部に落ちない自慢のチームがピラミットの頂点にいて、その間に8回もリーグで優勝している。バスケット地方特有の下部組織が出来ていて、どの町へ行っても芝生のグラウンドを持ち素晴らしい施設がある。そんな施設と組織と親切的なバスケの男達に接するだけで、サッカーと言うスポーツのロマンを感じる。そんな環境の中で育った同年輩の選手と真剣勝負で試合をするだけで、湘南の生徒は吸収するものが沢山あったと思う。そのために生活する宿舎の中、飛行機や町並みやスタジアムの雰囲気、本場プロ同士の試合の観戦、応援、サッカーを通して感じるスペイン・バスケット、の雰囲気、

全てが勉強になったと確信している。彼等の進歩の為に応援してくれる人達、清水先生、岩田先生、そして業者の方々、現地の親切なコーディネーター、その他多数の現地の人達、そんな人達の協力の中で、素晴らしい芝生の上で素晴らしい相手を選んで貰い、良い試合をして得る物が無いはずがない。彼等の中に本物のサッカーが吸収されたと思う。短い期間であったが生徒たちと一緒に行動し本場の土の匂いのする中でサッカーと言う世界共通のスポーツを通して接してきた「良い奴・バスケの男達」とのコミュニケーションは私の人生にも大いにプラスになった。

私が最終日まで生徒と一緒に行動できなかったのは、4月1日に県庁に行き「社団法人・神奈川県サッカー協会」の許可書を受け取る為に帰らなければならなかった訳で、ここに晴れて法人格を得て、「会長」に就任した事をこの紙面を借りて報告させていただきます。併せて「神奈川県サッカー協会の賛助会員」としてのご協力をOB諸氏にお願ひしたいと思います。特に賛助会員への特典は県内で行われる「国際試合」のチケットの斡旋を特別にしております。奮って応募してください。

さて現役の報告を少しさせてもらいますが今年は二世選手が増えてきました。二年・藤塚・一年・篠塚・久保・渋谷・等の活躍が楽しみです。来年から学区が撤廃され全県一区になります。

良い選手で成績の良い子は受験させていただきます。OB会のHP「中メール」も50回になりしばらく休刊しますが、又現役の大会成績次第で復活しますので、期待して待っていてください。現役の活動状況は「県サッカー協会HPの2種高校」のところに細かく掲載されています。この会報が出る頃には来年度の予想が出来ると思います。残念ながら地区大会で敗れ県大会への出場が出来なくなり、暫くは「苦難の・永い冬」が続きますが、これもこれからこの試練です。「暖かく見守ってやってください」

2004年を振り返って

監 清水 好郎

今年湘南高校サッカー部にとって、激動な1年でありました。春休みにス

ペイン（バスケット地方）に9泊11日の遠征、夏合宿を郊外（長野県菅平）、U17リーグ（2部）の参加、新人戦地区予選落ちなどです。

スペイン遠征の文集は3月末に完成予定で作業を進めていますので多くは書きませんが、生徒達にとって日本以外のサッカー及び文化に接し大変有意義な遠征でした。

夏合宿は本校のスキー教室で利用をしている菅平のエーデルホテルで行いました。大変整備された芝、旺盛な食欲、充分な睡眠を確保し、早朝・午前・午後・夜と充実した練習が出来ました。

U17リーグは今年度から始まりました。過去3年間成績をポイント化の結果、2部スタートとなりました。（1部14校2クラブ、2部28校4クラブ、その他は3部）4ブロック8チームのリーグ戦で2勝3負2分、勝点8で2部残留です。7月4試合、9月3試合を行いました。選手権予選と新人戦とスケジュールが立て込んでいる中、準備不足の状態です。2部残留を決めてくれました。来年度は早く準備をして1部を目指していきたいと思ひます。

新人戦予選落ちにはショックな出来事でした。チームとしての出来具合は悪くはないのですが、スケジュールの込

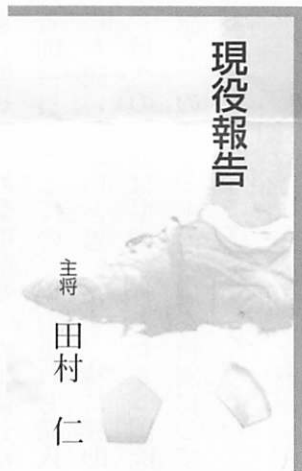
んでいる中でシステムの変更が出来ず、得点は出来るのですが、失点が多くなっていました。来年の5月まで公式戦がありません。私も経験が無いので練習計画に頭を悩ませています。

1年を振り返って、岩田先生が転勤で指導者が減り、時々ですが鈴木先生や通信制の林先生に指導を手伝っていただきました。一人でAチームの試合、Bチームの試合と会場を渡っています。どうしてもBチームの底上げが出来ません。また、GKは3年連続、高校からの初心者です。大事な試合で経験不足の失点をしています。この問題が一番の悩みです。若手OBの協力をお願いします。また最近の生徒は栄養バランスが悪く、腰や脛骨や腓骨を痛める生徒が多いので栄養補助食品を各自購入しています。アドバイスなどがありましたらお願いします。

来年度に向けて部員共々この5ヶ月間、忍耐強く頑張りたいと思います。OB各位のご協力のほどよろしくお問い合わせ申し上げます。

現役報告

主将 田村 仁



はじめに、僕たちが毎日サッカーをすることができるのはOB会の皆さんのおかげです。ありがとうございます。それでは2004年の僕たちの活動を報告したいと思います。

まず、僕たちは3月にスペインへ遠征に行きました。それは僕たちにとって本場にすばらしい経験になりました。行く先々の町にあるきれいな芝生のグラウンド、スタジアムの熱気、ビルバオの選手たちの練習風景。どれも忘れられない思い出になり、最高の遠征となりました。

そして、夏休みには菅平へ合宿に行きました。早朝から夜暗くなるまで練習をしました。この合宿には多くのOBの方々に練習を見に来ていただきました。本当に体力的にも精神的にもつらい合宿でしたが、そのかいあり、自信を持って選手権予選に挑むことができました。その選手権予選では1、2、3回戦は苦しみながらも勝ち抜くことができ、4回戦では強豪の武相との対

戦になりました。

その4回戦、前半は1対1とほぼ互角の試合でした。しかし、後半は武相の攻撃力に押され1対4で負けてしまいました。こんなに悔しかった試合は初めてでした。その武相はベスト16まで進み、負けました。

この大会で3年生が引退してしまい、今僕たちは新しいチームになり4ヶ月がたちました。11月に行われた新人戦予選では予選リーグを勝ちあがれず、1月の中央大会への出場ができなくなっていました。この大会では勝てばリーグ突破という大清水戦で前半までの2点のリードを後半守りきれず同点にされ、その後の2位リーグでは大清水戦から気持ちを切り替えることができずに2敗という結果に終わってしまいました。これは清水先生にも言われたことですが、サッカー以外の普段の生活のだらしない部分が試合に出た結果だと思っています。

これからこの負けをしつかりと反省し、もう一度自分たちの生活を見つめなおし、伝統あるこの部の湘南らしいサッカーをしていきたい思います。

2004年 公式戦結果

●関東大会予選

1回戦 0-3 茅ヶ崎北陵

●高校総体予選

2回戦 3-0 栗原
3回戦 3-1 聖光
4回戦 2-0 城郷
ブロツク決勝 0-1 小田原

●U・17リーグ

0-0 西湘
1-0 YSSCC
0-2 光明
1-3 横浜東
2-2 横浜商大
2-1 港南台
2-3 湘南工科

●高校選手権予選

2回戦 2-0 五領ヶ台
3回戦 2-1 金沢総合
4回戦 1-4 武相

●新人戦 地区予選リーグ

3-0 栄光
0-0 湘南台
2-2 大清水(リーグ戦2位)

●代表決定リーグ

0-1 七里方浜
0-4 湘南工科

[17年度会費納入の件]

16年度は皆様の御協力ありがとうございました。本年もよろしく願いいたします。社会人の方は、できましたら2口以上の寄付をお願いいたします。

- ・社会人 1口 5,000円
- ・学生 1口 3,000円

蹴球祭当日、受け付けを致しますが、御欠席の方は同封の用紙にてお振込み下さるようお願いいたします。なお、下記銀行口座も受け付けていますのでご利用下さい。

横浜銀行 本店 普通預金 口座番号 019166
 湘南高校サッカー部OB会
 武藤俊一 TEL. 0466-34-9329

[平成16年度会計報告]

<収 入>	
会費・寄付	1,112,000
寄付	10,500
スペイン遠征寄付残金	210,000
繰り越し	126,211
利子	2
計	1,458,713

※スペイン遠征寄付残金は、前年度中止となったスペイン遠征時の寄付金残をOB会で一時預かり管理していたものです。

<支 出>	
現役寄付	400,000
蹴球祭	100,980
スペイン遠征補助	300,000
筑波大付属戦補助	30,000
菅平夏合宿補助	200,000
夏期OB会	22,400
通信・事務費	150,500
印刷費	178,500
通帳残	76,333
計	1,458,713

[平成17年度湘南サッカーOB会予算案]

収入見込み 150名 (社会人140名, 学生10名)

$$90 \times 10,000 + 50 \times 5,000 + 10 \times 3,000 = 1,180,000$$

繰り越し金	76,333
計	1,256,333円

支出	現役寄付及び遠征補助	600,000
	印刷費	200,000
	通信・事務費	180,000
	蹴球祭・夏合宿	150,000
	付属定期戦補助	30,000
	予備費	96,333

1,256,333円

【蹴球祭・総会のご案内】

期日：1月9日（日） 場所：湘南高校（グラウンド、清明会館）

- (10:00~10:45) 幹事会 (清明会館/和室)
 11:00~11:30 総会 (清明会館/研修室)
 11:30~12:30 食事および着替え・アップ (着替えは清明会館和室使用)
 12:30~12:45 現役OB交歓会 (グラウンド横本部テント付近)
 13:00~15:00 OB紅白戦 (グラウンド2面使用)
 A面 (校舎側) 40代以上
 B面 若手OB

※本部受付はグラウンド横テント1ヶ所とします。(坂上は案内のみ)

本部に会長、事務局、鈴木先生がいるようにしますので、必ず立ち寄って下さい。

※受付は総会終了後12:00から開設し、会費納入と引き換えに弁当を配布します。

【編集後記】

会報23号をお送り致します。お忙しい中、会長始め多くの方々からご投稿を頂きありがとうございます。

来年は年初より蹴球祭、横浜国際総合競技場とサッカーイベントが続きます。お誘い合わせの上、多数ご参加下さい。湘南サッカーから遠のいていた方も、この機会に是非復帰されてはいかがでしょう。

今回、OB会活性化のためのアンケートを実施致しました。皆様の忌憚ないご意見・お考えをお聞かせ下さい。(事務局 45回 横山 雅行)

【ホームページアドレス】

湘南サッカー部OB会
<http://www.shonan-soccer.com>

【メールアドレス】

鈴木中 先生
s-cyu@jcom.home.ne.jp
 武藤俊一 (事務局)
muto@tbc.t-com.ne.jp
 横山雅行 (事務局)
m-yokoyama@heiwa-sangyo.co.jp

横浜国際総合競技場で試合決定!!

2002W杯決勝の会場となった横浜国際総合競技場を使用できることとなりました。横浜市スポーツ振興財団の20周年記念事業に当選した方から、50回の川口正人さんを通じて競技場をお借りすることができました。今回は試合時間計90分という条件があるため、40歳以上の5チーム約100名参加を想定しての紅白戦を企画しています。日程は1月16日（日）の午後1時30分開始の予定。試合参加資格は湘南ペガサス登録者と湘南サッカー部OB会員です。普段ペガサスに参加していない方もまたとない機会ですので、是非参加してください。詳細はホームページに掲載し、チーム連絡網でお知らせします。

お問い合わせは、事務局48回関まで。
seki56@viola.ocn.ne.jp
 またはTEL、FAX 0467-45-6644